

令和2年（2020年）度

大分大学大学院福祉健康科学研究科

修士課程

学 生 募 集 要 項

令和元年（2019年）9月



目 次

大分大学大学院福祉健康科学研究科入学者受入れの方針（AP：アドミッション・ポリシー）

大分大学大学院福祉健康科学研究科学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）

1. 入試日程	5
2. 募集人員	5
3. 出願資格	5
4. 出願資格認定について	6
5. 出願手続	7
6. 出願上の注意事項	8
7. 受験票の交付	9
8. 入学者選抜方法等	9
9. 合格者発表	11
10. 障がいのある者等の事前相談について	12
11. 入学手続	12
12. 入学料及び授業料	12
13. 長期履修制度について	12
14. 社会人への特例措置	13
15. 個人情報の取扱い	13
16. 奨学金制度	13
17. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度	13
18. 学生教育研究災害傷害保険制度	13

【研究科案内】

1. 研究科の概要	14
2. 修業年限	14
3. 修了の要件	14
4. 学位の授与	14
5. 資 格	15
6. 授業科目及び単位数	15
7. 授業科目の概要	17
8. 担当教員	25

大分大学大学院福祉健康科学研究科入学者受入れの方針

(AP : アドミッション・ポリシー)

基本理念

現在、我が国では、様々な社会情勢の変化に伴い、必要となる支援が多様化・複雑化している。そこで、このような急速な変化に対応するために、医療、福祉、心理といった個別の分野の専門性の拡充及びこれらを結節した福祉健康科学の深化を進め、「地域共生社会」の実現を担う高度な実践力と研究力を有する人材の育成を行う。

教育・研究の目標

①健康医科学コース

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、医科学や理学療法学等の自らの専門性を論理的に立証し、健康医科学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができる臨床・行政のリーダーや教育者、研究者を養成する。

②福祉社会科学コース

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、福祉社会の構築に向けた制度・政策の立案、また相談支援や臨床福祉における実践活動の専門性を論理的に立証し、福祉社会科学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができるリーダーや、専門的な教育研究に従事する人材を養成する。

③臨床心理学コース

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、心の健康や心理学的支援に関する高度な専門性を有し、心理学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができる心理専門職を養成する。

求める学生像

①健康医科学コース

健康医科学(理学療法学や生命科学等)に関する基礎知識を有し、健康医科学に関する臨床実践・行政・研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

②福祉社会科学コース

福祉社会科学に関する基礎知識を有し、福祉社会科学に関する実践・行政・研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

③臨床心理学コース

心理学に関する基礎知識及び臨床心理学的な支援に関する資質を有し、心理専門職として、心理支援の実践や研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

入学者選抜の基本方針

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、医療、福祉、心理いずれかの基本的知識を持つとともに、「地域共生社会」の理念に立って福祉健康科学における自らの専門分野の意義を多角的な視点で学ぼうとする意欲を持つ人を求める。

これに加え、社会人のリカレント教育としては、社会経験にもとづく明確な問題意識を持つと同時に、自らの専門性をさらに高めようとする意欲を持つ人を求める（健康医科学コース及び福祉社会科学コース）。

※「地域共生社会」とは

本学が定義する「地域共生社会」とは、「多様な問題・困りを抱えるすべての人が、問題・困りの性質や年齢・世代にかかわらず、医療、福祉、心理の結節に基づく専門的な支援をうけるとともに、そうした問題・困りを抱える人を含めたすべての人が地域社会の中で互いにつながり、存在価値を認めあうコミュニティをつくり出していく社会」のことをいう。

大分大学大学院福祉健康科学研究科学学位授与の方針

(DP：ディプロマ・ポリシー)

(1) 学位授与の方針

福祉健康科学研究科は、教育目標として『「より高度な専門性を備え、多角的・総合的な支援を地域に根付かせていく実践力」と「医科学を取り入れて福祉健康科学を深化させることができる研究力」を兼ね備え、かつそれらの相互作用によって、「地域共生社会」の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うパイオニアの養成を目的とする』を示し、そこに含まれる2つの能力それぞれに対してディプロマ・ポリシーを設定する。

① ディプロマ・ポリシー1 (実践力)

3コースに共通する方針に各コースの方針を加えることによって、各コースのディプロマ・ポリシー1が完成する。

3コースに共通する方針

自らの専門領域に加え、医療、福祉、心理を俯瞰し、個人と地域を関係づけた多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術を修得している。

健康医科学コースの方針

福祉健康科学及び健康医科学を深く理解し、医療に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

福祉社会科学コースの方針

福祉健康科学及び福祉社会科学を深く理解し、福祉に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

臨床心理学コースの方針

福祉健康科学と心理学を深く理解し、心の健康に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

② ディプロマ・ポリシー2 (研究力)

3コースに共通する方針に各コースの方針を加えることによって、各コースのディプロマ・ポリシー2が完成する。

3コースに共通する方針

自らの専門領域を基盤としつつ、医科学の視点やその研究手法を取り入れ、福祉健康科学を深化させるための研究を進める上で必要となる知識と技術を修得している。

健康医科学コースの方針

健康医科学に関する課題を明らかにし、健康医科学の発展に向けた研究を進める上で必要な知識と技術を修得している。

福祉社会科学コースの方針

現代の福祉課題や地域の福祉ニーズを分析し、福祉社会科学の発展に向けた研究を進

める上で必要な知識と技術を修得している。

臨床心理学コースの方針

心の健康や心理学的支援に関する現代的課題を発見・分析し、臨床心理学を中心とする心理学の発展に向けた研究を進める上で必要な知識と技術を修得している。

上記の考えに基づき、1専攻としての学びの上に各コースとしての学びを積み重ねることによって、ディプロマ・ポリシー1及び2に示す知識・技術を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。そのため、コースごとに授与する学位は次の通りとする。

- ・健康医科学コース（授与する学位：修士（健康医科学））
- ・福祉社会科学コース（授与する学位：修士（福祉社会科学））
- ・臨床心理学コース（授与する学位：修士（心理学））

令和2年度（2020年度）福祉健康科学研究科学生募集要項

1. 入試日程

区分	第1次募集	第2次募集
出願期間	令和元年（2019年）10月28日(月) ～令和元年（2019年）11月1日(金)	令和2年（2020年）2月17日(月) ～令和2年（2020年）2月21日(金)
試験日	令和元年（2019年）11月30日(土)	令和2年（2020年）3月14日(土)
合格者発表	令和元年（2019年）12月10日(火)	令和2年（2020年）3月20日(金)

※ 第2次募集を行う場合は、大分大学ホームページ (<https://www.oita-u.ac.jp/>) でお知らせしますので、必ず確認してください。

2. 募集人員

専攻	コース	募集人員
福祉健康科学	健康医科学コース 福祉社会科学コース 臨床心理学コース	20人

※各コースの受け入れの目安は次のとおりです。

健康医科学コース 5人程度

福祉社会科学コース 5人程度

臨床心理学コース 10人程度

※健康医科学コース及び福祉社会科学コースの募集人員は、一般選抜及び社会人選抜を合わせたものです。

3. 出願資格

(1) 一般選抜（全コース）

次のいずれかに該当する者（令和2年（2020年）3月末までに）出願資格に該当する見込みの者を含む）

①大学を卒業した者

②大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者

③外国において学校教育における16年の課程を修了した者

④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

⑥大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大

学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの

- ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑧文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- ⑨本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

(2) 社会人選抜（健康医科学コース及び福祉社会科学コース）

上記の一般選抜の出願資格を満たすとともに、志願するコースの職務に関連する2年以上の経験を有する者

4. 出願資格認定について

出願資格⑥、⑨のいずれかにより出願しようとする者については、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。（出願資格認定を希望する者は、事前に入試課に相談してください。）

(1) 出願資格⑥により出願しようとする場合（提出された書類は返却しません。）

提出書類	摘 要
①出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②最終学歴に関する証明書等	卒業（修了）証明書、成績証明書 日本語以外の証明書は、日本語訳を添付してください。 （短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業（修了）した者は、短期大学又は高等専門学校の卒業（修了）証明書、成績証明書を併せて提出してください。）
③学修計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
④その他の資料	科目等履修生等の成績証明書
⑤戸籍抄本等の写し（改姓した者）	改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。

(2) 出願資格⑨により出願しようとする場合（提出された書類は返却しません。）

提出書類	摘 要
①出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②最終学歴に関する証明書等	卒業（修了）証明書、成績証明書 日本語以外の証明書は、日本語訳を添付してください。 （短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業（修了）した者は、短期大学又は高等専門学校の卒業（修了）証明書、成績証明書を併せて提出してください。）

③学修計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
④業績一覧	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。(主な業績のコピーを各1部添付してください。ただし、提出する業績は3篇までとします。)
⑤その他の資料	科目等履修生等の成績証明書, 志望するコースに関する研究会やセミナー等に参加したことを確認できるもの等。
⑥戸籍抄本等の写し (改姓した者)	改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。

(3) 提出期間

- 第1次募集 令和元年(2019年)9月30日(月) ~ 10月4日(金)
17:00まで(必着)
- 第2次募集 令和2年(2020年)1月20日(月) ~ 1月24日(金)
17:00まで(必着)

(4) 提出方法 郵送に限ります。

「速達簡易書留」郵便で、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし、郵送してください。

- (5) 提出先 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

(6) 認定の結果 認定の結果は、下記期日までに本人に通知します。

- 第1次募集 令和元年(2019年)10月23日(水)
第2次募集 令和2年(2020年)2月12日(水)

5. 出願手続

志願者は「(2) 出願書類等」に掲げる書類等を取り揃え、下記出願期間中に提出してください。

(1) 出願期間

- 第1次募集 令和元年(2019年)10月28日(月) ~ 11月1日(金)
17:00まで(必着)
- 第2次募集 令和2年(2020年)2月17日(月) ~ 2月21日(金)
17:00まで(必着)


ア 受付時間は、9時から17時までとします。(土日、及び祝日を除く。)

イ 郵送の場合は、「速達簡易書留」郵便で下記あてに郵送してください。

提出先 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

(2) 出願書類等(提出された書類は返却しません。)

出 願 書 類 等	摘 要
①入学志願書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
②受験票	

<p>③入学検定料払込 (30,000円)</p>	<p>下記URLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は、「収納証明書（コンビニエンスストアによっては領収書）」をA4白紙に貼り付けて提出してください。 ・パソコンからの本学ホームページ (https://www.oita-u.ac.jp/) 上部メニュー → <input type="text" value="入試情報"/> → <input type="text" value="入学検定料のコンビニ収納"/> から申し込んでください。 ・携帯電話からの申込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 </p> <p>※手数料は本人負担です。 ※納入した検定料は返還できません。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。</p>
<p>④成績証明書</p>	<p>出身学校等の長が証明したもの。 日本語以外の証明書は日本語訳を添付してください。</p>
<p>⑤卒業（見込）証明書又は 修了（見込）証明書</p>	<p>（ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。）</p>
<p>⑥学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書 （出願資格②に該当する者）</p>	<p>大学改革支援・学位授与機構が証明した学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。</p>
<p>⑦学修計画書</p>	<p>本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。 （ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。）</p>
<p>⑧出願資格認定通知書の写し（出願資格認定を受けた者）</p>	<p>出願資格ありと認定された者は、出願資格認定通知書のコピーを提出してください。</p>
<p>⑨受験及び就学承諾書 （健康医科学コースの社会人選抜受験者で、有職者のみ）</p>	<p>入学後も在職のまま就学しようとする者は、本学ホームページから所定の様式をダウンロードして、所属機関長の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっては、事前に指導教員と相談してください。</p>
<p>⑩戸籍抄本等の写し （改姓した者）</p>	<p>改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。 （ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。）</p>
<p>⑪住民票の写し （外国人志願者のみ）</p>	<p>日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。なお、入学志願書等には、この住民票の写しに記載された氏名を記入してください。</p>
<p>⑫受験票等送付用封筒</p>	<p>市販の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手（374円）を貼ってください。</p>

※出願書類の様式は下記 URL からダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

6. 出願上の注意事項

- ① 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- ② 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ③ 出願期間後に到着したもの及び出願書類等が不備なものは受付できません。

- ④ 出願書類等は一括して取り揃え、志願者が直接提出してください。
- ⑤ 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑥ 災害に関する特別措置(入学検定料等)につきましては、本学ホームページでお知らせします。
- ⑦ 複数のコースに同時に出願することはできません。
- ⑧ 出願前に、本学において開催する大学院進学説明会に参加するか、もしくは志願するコースの担当教員と進学希望等について十分に相談をしてください。進学説明会の詳細は本学ホームページでお知らせします。また、担当教員と相談することを希望する場合は、前もって大分大学学生支援部入試課（E-mail：nyusiss@oita-u.ac.jp）に下記事項をメールで送付するとともに、相談日時の調整を依頼してください。ただし、すでに担当教員と進学に関して相談をしている場合を除きます。

1. 希望コース 2. 希望担当教員 3. 相談内容（研究したい内容等） 4. 電話番号

7. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の受付の際に申し出てください。

8. 入学者選抜方法等

(1) 学力検査等

コース毎に筆記試験及び口述試験により行います。

○健康医科学コース（一般選抜）

試験（総得点）	科目（配点）	時間
筆記試験（200）	英語（50）	9時00分～9時45分
	小論文（150）	10時00分～12時00分
口述試験（100）	個人面接（100）	13時00分～

○健康医科学コース（社会人選抜）

試験（総得点）	科目（配点）	時間
筆記試験（150）	小論文（150）	10時00分～12時00分
口述試験（150）	個人面接（150）	13時00分～

【備考】

- ・「英語」においては、辞書（英和）の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書の持ち込みやスマートフォン等を辞書として用いることは認めません。
- ・「小論文」は、理学療法学や生命科学等に関する理解を問う問題とします。

- ・「個人面接」は、学修計画書等に基づいて行います。

○福祉社会科学コース（一般選抜）

試 験（総得点）	科 目（配点）	時 間
筆記試験（200）	英 語（50）	9時00分～9時45分
	専門科目（50） 小論文（100）	10時00分～12時00分
口述試験（100）	個人面接（100）	13時00分～

○福祉社会科学コース（社会人選抜）

試 験（総得点）	科 目（配点）	時 間
筆記試験（150）	専門科目（50） 小論文（100）	10時00分～12時00分
口述試験（150）	個人面接（150）	13時00分～

【備考】

- ・「英語」においては、辞書（英和）の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書の持ち込みやスマートフォン等を辞書として用いることは認めません。
- ・「専門科目」は、福祉社会科学（社会福祉制度・政策、ソーシャルワーク等）に関する知識を問う問題とします。
- ・「小論文」は、福祉社会に関する理解を問う問題とします。
- ・「個人面接」は、学修計画書等に基づいて行います。

○臨床心理学コース（一般選抜のみ）

試 験（総得点）	科 目（配点）	時 間
筆記試験（200）	英 語（50）	9時00分～9時45分
	臨床心理学（80） 基礎心理学（70）	10時00分～12時00分
口述試験（100）	個人面接（100）	13時00分～

【備考】

- ・「英語」においては、辞書（英和）の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書の持ち込みやスマートフォン等を辞書として用いることは認めません。
- ・「臨床心理学」に関する問題は、臨床心理学に関する知識を問う問題とします。
- ・「基礎心理学」に関する問題は、認知心理学、学習心理学、神経生理心理学、発達心理学、社会心理学・教育心理学等の中から出題します。
- ・「個人面接」は、学修計画書等に基づき行います。

※受付は、一般選抜は8時30分まで、社会人選抜は9時30分までに終わってください。

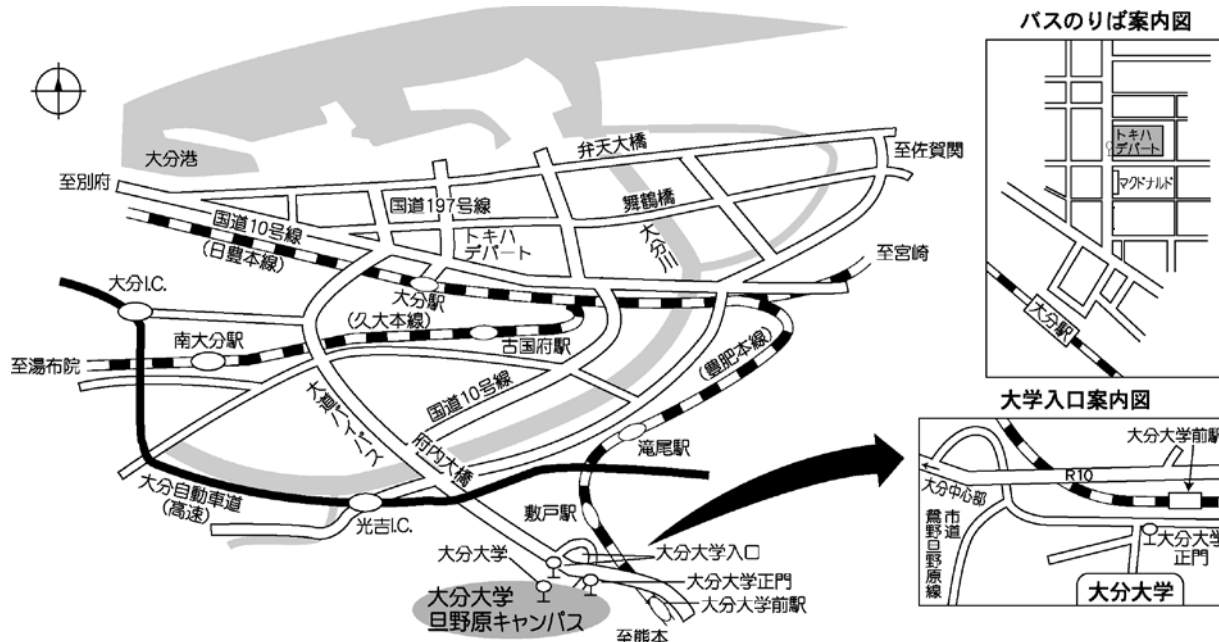
※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

(2) 試験会場

大分市大字旦野原 700 番地

大分大学福祉健康科学部（旦野原キャンパス）

大分大学旦野原キャンパス位置図



●交通アクセス

<JR利用>

JR 豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約 15 分），徒歩約 10 分。

<バス利用（大分バス）>

「大分駅前 3 番または 4 番のりば」もしくはトキハデパート前「1 番のりば」から（約 30 分）

「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行き「大分大学正門」もしくは「大分大学（構内）」下車

「戸次」「臼杵」「竹田」「佐伯」行き「大分大学入口」下車（約 30 分），徒歩約 10 分

（詳細は時刻表で確認してください。）

9. 合格者発表

第 1 次募集 令和元年（2019年）12月10日（火）10時

第 2 次募集 令和 2 年（2020年） 3月20日（金）10時

合格者には郵送により通知します。また、大分大学ホームページ（<https://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者の受験番号を掲載します。

なお、電話による可否の問い合わせには一切お答えできません。

10. 障がいのある者等の事前相談について

障がいを有する等、受験上特別な措置及び修学上特別の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の事項を記載した相談申請書（様式任意）に医師の診断書を添えて下記期日までに本学学生支援部入試課に提出してください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ・障がいの種類・程度 | ・受験の際に特別な配慮を希望する事項 |
| ・修学の際に特別な配慮を希望する事項 | ・日常生活の状況及びその他参考となる事項 |

第1次募集 令和元年（2019年）9月27日（金）17時まで

第2次募集 令和2年（2020年）1月17日（金）17時まで

11. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせいたします。

なお、入学手続日に入学手続をしなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

12. 入学料及び授業料

入学料 282,000 円

授業料（年額） 535,800 円（前期分 267,900 円 後期分 267,900 円）

注1 入学料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度が、授業料については免除・奨学融資の制度があります。免除・徴収猶予の申請は、入学手続期間に行う必要がありますので、詳細については、学生支援課奨学支援グループ（TEL097-554-7386）までお問い合わせください。

注2 入学料・授業料は改定されることがあります。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

注3 既納の入学料は返還できません。

注4 入学料の免除・徴収猶予を申請される方は、入学料を払い込まずに入学手続期間に申請書類を提出してください。ただし、入学手続き完了後に入学を辞退した場合は、直ちに入学料を納付しなければなりません。

注5 国費外国人留学生については、入学料・授業料を納付する必要はありません。

13. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者（家事、育児及び介護など）です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

※この制度は、臨床心理学コースについては適用されません。

【授業料の納入例】（年度により金額の変更がないと仮定した場合）

標準修業年限（2年）

1年次 (535,800円)	2年次 (535,800円)	1,071,600円
-------------------	-------------------	------------

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)
-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$$

1 4. 社会人への特例措置

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の教育方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることとなります。

このことを踏まえ、社会人に配慮して、夜間に授業を開講することで履修・修学しやすい環境を整備しています。

※この特例措置は、臨床心理学コースについては適用されません。

1 5. 個人情報の取扱い

志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した場合には、選考資料として利用します。

1 6. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は、次のとおりです。

大学院第一種奨学金（無利子）	月額 50,000円又は88,000円
大学院第二種奨学金（有利子）	月額 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円 ・150,000円から選択

1 7. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度

入学料や授業料の融資を大学が指定する金融機関から受けた方の在学中の利息を大学が負担する制度があります。日本人学生が対象です。詳細は学生支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）までお問い合わせください。

1 8. 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険は、大学院在学中の実験・実習等の正課、学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷、死亡等の災害に対する補償制度です。詳細について、ご希望の方は入学手続きの際にお尋ねください。

福祉健康科学研究科案内

1. 研究科の概要

本研究科は、福祉健康科学の理念に基づき、医療、福祉、心理に関する教育研究を1専攻（福祉健康科学専攻）で行い、また各領域に関する専門的な教育研究を行う組織として、「健康医科学コース」、「福祉社会科学コース」、「臨床心理学コース」が設けられています。

《健康医科学コース》

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、医科学や理学療法学等の自らの専門性を論理的に立証し、健康医科学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができる臨床・行政のリーダーや教育者、研究者を養成することを目的とします。

《福祉社会科学コース》

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、福祉社会の構築に向けた制度・政策の立案、また相談支援や臨床福祉における実践活動の専門性を論理的に立証し、福祉社会科学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができるリーダーや、専門的な教育研究に従事する人材を養成することを目的とします。

《臨床心理学コース》

医療、福祉、心理をより総合的に俯瞰するための科学的な基礎を備え、心の健康や心理学的支援に関する高度な専門性を有し、心理学の視点から「地域共生社会」の構築を牽引することができる心理専門職を養成することを目的とします。

2. 修業年限

2年を標準とします。

3. 修了の要件

2年以上在学し、基礎科目6単位以上、発展科目12単位以上及び研究展開科目12単位、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

なお、発展科目12単位以上については、健康医科学コースは、医療関連科目群から8単位以上、福祉関連科目群から2単位以上、心理関連科目群から2単位以上を、福祉社会科学コースは、福祉関連科目群から8単位以上、医療関連科目群から2単位以上、心理関連科目群から2単位以上を、臨床心理学コースは、心理関連科目群から8単位以上、医療関連科目群から2単位以上、福祉関連科目群から2単位以上を修得することとします。（下記6 授業科目及び単位数参照）

4. 学位の授与

健康医科学コースを修了した者には、修士（健康医科学）の学位を授与します。

福祉社会科学コースを修了した者には、修士（福祉社会科学）の学位を授与します。
臨床心理学コースを修了した者には、修士（心理学）の学位を授与します。

5. 資格

臨床心理学コースは、公認心理師の受験資格取得に必要なカリキュラムによる教育を行っています。学部で公認心理師受験資格に必要な科目を修めた人は、同コースで必要な科目を修めることによって公認心理師の受験資格を得ることができます。

また、臨床心理学コースは、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より第一種大学院の指定を受ける予定です。同コースに所属する学生は、所定の単位を修得し、臨床心理学に関する修士論文を作成すれば、臨床心理士の受験資格を得ることができます。

6. 授業科目及び単位数

科目区分, 分野		授業科目の名称	単位	必修選択
基礎科目		福祉健康科学特論Ⅰ	2	必修
		福祉健康科学特論Ⅱ	2	必修
		地域医療健康増進科学特論	2	選択
		地域福祉特論	2	選択
		家族・コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	選択
発展科目	医療関連科目群	健康医科学特論	2	選択
		高齢者疾患特論	2	選択
		病態医科学特論	2	選択
		病態治療学特論	2	選択
		運動器系機能病態解析学特論	2	選択
		神経系機能病態解析学特論	2	選択
		医療工学特論	2	選択
		公衆衛生学特論	2	選択
		臨床実践演習	2	選択
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	選択
	福祉関連科目群	福祉社会科学課題演習	2	選択
		社会福祉原理論	2	選択
		社会保障政策特論	2	選択
		福祉政策特論	2	選択
		高齢者福祉特論	2	選択
		児童・家庭福祉特論	2	選択
		障害者福祉特論	2	選択
		生活困窮者支援特論	2	選択
		医療福祉特論	2	選択
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	選択		

心理関連科目群	心理学研究法特論	2	選択
	臨床心理学研究法特論	2	選択
	障害児・者心理学特論	2	選択
	神経生理心理学特論	2	選択
	臨床発達心理学特論	2	選択
	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	選択
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	選択
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	選択
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	選択
	生涯発達心理学特論	2	選択
	教育心理学特論	2	選択
	臨床心理学特論Ⅰ	2	選択
	臨床心理学特論Ⅱ	2	選択
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	選択
	臨床心理面接特論Ⅱ※	2	選択
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）※	2	選択
	臨床心理査定演習Ⅱ※	2	選択
	臨床心理基礎実習※	2	選択
	臨床心理展開実習（心理実践実習A）※	2	選択
	臨床心理応用実習A（心理実践実習B）※	3	選択
	臨床心理応用実習B（心理実践実習C）※	2	選択
	臨床心理実習A（心理実践実習D）※	2	選択
	臨床心理実習B※	2	選択
	臨床動作法特論※	2	選択
保護者支援特論※	2	選択	
研究展開科目	福祉健康科学特別演習Ⅰ	2	必修
	福祉健康科学特別演習Ⅱ	2	必修
	福祉健康科学特別研究Ⅰ	4	必修
	福祉健康科学特別研究Ⅱ	4	必修

※ 発展科目（心理関連科目群）の一部の履修は臨床心理学コース所属の学生に限るものとします。

7. 授業科目の概要

授業科目の名称	講義等の内容
福祉健康科学特論Ⅰ	本研究科の目的は「地域共生社会の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うことができるパイオニア」を養成することである。そのためには、まず、「福祉健康科学」や「地域共生社会」の概念を確実に理解するとともに、関連する取組の実際を具体的に理解しておく必要がある。この科目では、二年間の学修を始めるにあたり、まず「福祉健康科学」や「地域共生社会」について深く学び、それをもって今後の学修の基礎とすることをねらいとする。
福祉健康科学特論Ⅱ	福祉健康科学特論Ⅰで得た「福祉健康科学」と「地域共生社会」に関する理解に基づき、健康医科学、社会福祉科学、臨床心理学の専門的な視点や技法がいかに関「地域共生社会」の実現に役立つのか、具体的な取組事例（個の支援および地域・コミュニティ支援）にも触れながら深く学ぶ。また、それらの視点を結節させ、連携と協働のもとに、「地域共生社会」を牽引する方策あるいは資質・能力について考究する。これにより、医療、福祉、心理を俯瞰し、多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術の伸長を進める。
地域医療健康増進科学特論	本科目のうち、地域医療の分野では、現在行われている地域医療についてがん患者の事例を中心に学修する。健康増進分野では事例や先行研究の検証を通じて、健康増進に関する課題と問題解決の方法を学修する。以上を通して、地域医療や健康増進に関する研究を遂行するために必要な理論および実践的な方法論を身につける。
地域福祉特論	近年、経済構造の変化によって社会的な課題を解決する「空間的単位」が小さくなり、社会的孤立や社会的排除など福祉問題の多くが地域ごとにローカルに読み解く必要が高まっている。この授業のねらいは、こうした地域で生じている福祉問題を構造的に理解するとともに、複合的なニーズを抱える人々を地域でいかに支援していくか、また、そうした人々を支えるためには地域にどのように働きかけているのかを考えることである。
家族・コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	心理臨床の現場では、クライアントへの個別的支援だけでなく「家族・集団・地域社会」全体を支援するコミュニティの視点も求められる。本授業では、家族関係に関する支援（家族療法を含む）、集団に関する支援について学んだ後、医療や福祉をはじめとする多職種との協働と総合的支援の展開について実践的に学ぶ。
健康医科学特論	病者に対する安全で適切な医療や科学的に健全な生命科学研究を実施する臨床家やその研究者を育成するためには、正常な人体の構造や機能を理解することが不可欠である。これらの理解のためには解剖学、生化学、生理学などの基礎医学の理解が必要である。基礎医学の基礎から研究の最前線までを俯瞰して、深く学ぶことを目的とする。
高齢者疾患特論	高齢者では生理的加齢変化とさまざまな疾患が相乗することにより、機能障害がもたらされる。このため高齢者医療を考える際に、老化と老年病に関する総合的な知識が不可欠である。特に後期高齢者においてその傾向が著しく、個別の疾患や障害の診断や評価はもちろんのこと、それらを総合して患者の全体像を的確に把握する能力が要求される。

病態医科学特論	<p>主要な疾患の理解には、その病因、病態を深く学ぶことが不可欠である。基礎医学の知識を基にした各種疾患における病理学、病理組織学を学ぶとともに、炎症、腫瘍、循環等の病態生理学への理解を深める。また病態治療に用いるために不可欠な薬理学のメカニズムを身につけ、疾患への深い理解へ結びつけることを目的とする。</p>
病態治療学特論	<p>健康医科学においては、多くの愁訴、疾患を抱えた人々への理解が必要不可欠である。また各種病態の診断、治療は刻々と変化しており、表面的なものでなく病態の深い理解、また最新の診断学、治療法を身につけねばならない。本科目では、幅広い疾患においてその発生機序、病態生理を学ぶことにより、より深い疾患の理解を得る。また、病態に基づいた最新の診断、治療法について具体的な症例を通して学ぶ。</p>
運動器系機能病態解析学特論	<p>筋、神経、関節などの運動器系は理学療法の対象となることが多い。また運動器系の病態に関して、その発症要因や治療法について詳細に理解するためには、分子の役割から病態のメカニズムまで深く理解する必要がある。本講義では、運動器系の機能や病態に関して分子メカニズムから詳細に理解し、運動器系の病態に対する治療とそのメカニズムに関して最新の知見を学ぶ。</p>
神経系機能病態解析学特論	<p>神経機能は運動や感覚、コミュニケーションや記憶・学習など、ヒトが社会において適応的な行動を生み出すための重要な組織である。そして、この神経機能が障害されると、ヒトが生活を営むための機能の喪失、すなわち生活の質の低下に直結する。そのため、神経機能の病態をミクロ～マクロレベルで理解することが、神経疾患患者の社会復帰を促進する上で必要不可欠となる。本講義では、脳をはじめとする神経機能の詳細な理解と解析手法を学ぶことで、神経機能病態を詳細に理解する手法を習得する。</p>
医療工学特論	<p>医療福祉機器の開発や地域産業の活性化を目的に、大学と企業の産学官連携や、医療と工学の医工連携による新しい技術や製品の開発が進められている。本講義では、医療従事者として工学の専門的知識・技術を学び、医療と工学の連携による新しい技術の開発やそれによる地域医療の進歩について深く探究する。さらに、各分野における工学技術を取り入れた医療機器の治療・診断技術の特性、医工連携に関する開発研究について、導入事例を通して学ぶ。</p>
公衆衛生学特論	<p>自然科学としての医学とその応用としての医療は、社会とのつながりの中で人々の役に立つ。現在の我が国は、超高齢社会やがん、メタボリック症候群などの問題に直面している。加えて、世界的には感染症や環境汚染等の未解決の問題が山積しており、その対策への我が国の貢献が期待されている。これらの問題を理解し解決するために必要な公衆衛生学的な考え方の基礎を固めることを目標とする。</p>
臨床実践演習	<p>主として臨床での経験が浅い医療従事者を対象として、それぞれの職種に求められる基本的なクリニカルリーズニングとスキルについて代表的な症例を通して身につける。さらに医療・地域で関わる他職種との連携について学修することを目的とする。特に、病態の理解や各種検査結果の解釈を踏まえたアセスメント能力を高め、科学的根拠を念頭に置いた介入計画を立案できることを目標とする。</p>

<p>精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)</p>	<p>本講義では「心の健康の維持」や「心の病気の予防」に関する内容もとり入れながら、「統合失調症」や「アルコール・薬物依存」「認知症」について概説する。また、現在問題となっている「うつ病と自殺」「発達障害」についても言及する。これにより、精神医学・精神医療の実践知を心理支援に統合させることを促す。</p>
<p>福祉社会科学課題演習</p>	<p>我が国の社会構造の変化に伴い、医療や生活支援が多様化・複雑化している。そのような「福祉」「医療」「心理」における課題を総合的に俯瞰し、ミクロ・メゾ・マクロのレベルの課題を科学的に分析する能力と課題解決能力を得ることを目的とする。本講義は、課題に対し受講生自ら問題点を見だし、討議を重ね解決していく PBL (Problem Based Learning)方式にて行う。</p>
<p>社会福祉原理論</p>	<p>この講義は、社会福祉が実現すべき地域共生社会のありようについて明確なイメージを得ること及び、地域共生社会を実現するために、社会福祉の理論研究や歴史研究がいかなる課題を見出してきたのかを追究する。社会福祉は個人のウェルビーイングや地域課題の解消を目指す社会システムの1つであるが、それ自体が制度の狭間といった課題を生み出すという限界も合わせもって展開してきた。この講義ではその現実を直視し、その到達点と課題を理解したうえで今後のありようを具体的に議論するための基礎を提供することを目指す。</p>
<p>社会保障政策特論</p>	<p>社会保障は私たちの生活の安定や安心を確保する上で重要な役割を担っているが、少子高齢化や家族のあり方の多様化などの社会経済状況の変化を背景として、さまざまな課題に直面している。 講義では、文献の輪読、報告とディスカッションを通じて、福祉社会の構築を図るために不可欠な社会保障の専門知識を体系的に習得し、政策課題について自らの見解を示すことができるようになることを目指す。 テーマとしては、医療保障(医療保険制度、医療提供体制等)、介護保障(介護保険と改革方策)、所得保障(年金制度、公的扶助等)、生活保障(社会保障と雇用の関係)を取り上げ、多角的に分析・考察を行う。さらに、比較の視点から諸外国の社会保障制度・政策について検討し、社会保障のあり方と問題解決策を検討する。</p>
<p>福祉政策特論</p>	<p>日本の福祉政策、あるいは福祉ニーズに対する現金給付・サービス給付という社会のシステムは、今日、どのような社会経済的環境のなかにあり、どのような課題に直面しているであろうか。この講義では、前半部分で、福祉政策を取り巻く今日的環境の把握を目指し、雇用・家族・福祉国家をめぐる政治経済学アプローチについて検討する。後半部分では、福祉政策が直面する今日的課題として、社会的排除／包摂の議論や実態を取り上げる。これらの検討を通して、日本の福祉政策の制度や国民生活をめぐる問題を、今日の社会経済や福祉資本主義のうねりの中に位置づけて把握する視点を養う。</p>
<p>高齢者福祉特論</p>	<p>認知症をもつ人の事例を中心に、ミクロ、メゾ、マクロでのケアの問題を紐解き、「よいケア」及び「地域包括ケア」のあり方について考えていく。さらに、介護と家族、高齢者のターミナルケアや尊厳死について議論する。</p>

児童・家庭福祉特論	児童虐待，少年非行，DVなどの子どもや家庭の問題の現状と課題について取り上げ，その具体的な事例についてアセスメント・プランニングなどケアマネジメントを行い，子どもやその家庭，特に障害者や高齢者を含む多問題家族を対象にした包括的支援についてミクロ・メゾ・マクロの視点から基本的かつ実践的な知識や技術及び倫理について，さらには包括的な支援を展開する上で必要な事業など社会資源のあり方などについて演習を通して学ぶ。
障害者福祉特論	本講義は，障害者福祉をめぐるマクロレベル，メゾレベル，ミクロレベルにおける課題を検討し，その上で課題の緩和や課題に向けていかなる方策があるのかを検討する。政策（マクロ）に関しては，近年の障害者権利条約の影響を受けた日本の障害者政策の課題について取り上げる。メゾについては精神障害や知的障害者の脱施設化の問題を取り上げる。ミクロについては，発達障害やパーソナリティ障害をもつ人への支援のあり方について議論する。
生活困窮者支援特論	福祉課題や福祉ニーズに対処するためには，従前は分離して議論されがちであった<政策>もしくは<実践>のいずれかの領域の内に視野を留めるのではなく，法や予算などの政策（マクロ），事業の計画・運営（メゾ），個別的な支援実践（ミクロ）といったそれぞれの位相で複層的に捉えて検討する必要がある。 本講義では，生活困窮者等の生活支援システムの課題やあり方の検討をとおして，マクロ・メゾ・ミクロそれぞれの位相から総合的にアプローチする視点と，政策と実践の両面から具体的な課題を分析する能力を得ることを目的とする。
医療福祉特論	保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解することを目的とし，地域包括ケアシステムや緩和ケア・終末期医療等における医療ソーシャルワーカーの役割について学ぶ。講義では，医療ソーシャルワークに関する文献概要のレジюмеや事例等に基づいた報告と討論を中心に講義を展開する。
福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	本科目では，虐待，DV，障害者福祉，児童家庭福祉，高齢者福祉，地域福祉について概説しつつ，それぞれに関する心理学的な支援の実践について取り上げる。福祉領域における支援は多岐に渡るが，医療や教育といった関係領域との連携抜きに行うことはできないため，その点についても積極的に学びを展開する。
心理学研究法特論	心理学研究における主要な研究法について詳述するとともに，その研究法に関する内外の学術論文を読解・討議することにより，研究を行う上で必要な専門知識と技能の習得を進める。
臨床心理学研究法特論	臨床心理学における主要な研究法である質的研究法を取り上げ，その特徴と目的，理論と実施方法について詳述する。特に，面接法，グラウンディッド・セオリー・アプローチ，KJ法，複線径路・等至性モデル，事例研究法などについて，実際の研究論文を読み解きながら具体的に学ぶ。また，大学院生自身の研究計画にも敷衍させ，学位論文研究の実践につなげる。

障害児・者心理学特論	本授業では、医療・福祉・心理等の視点から発達障害児・者が抱える様々な困難を総合的に理解した上で、特に臨床心理学的な支援を実践するための方法について学ぶことを目的とする。また、支援方法として特に集団心理療法的アプローチについて学び、集団心理療法の基礎的理論及び、実際の支援方法について体験的に学び、理解を深める。
神経生理心理学特論	神経生理心理学の主要な領域・テーマに関する重要かつ先進的な知見を学ぶことを目的として、講義や文献の分析・討議を行う。具体的には、自律神経活動、免疫・内分泌系活動、脳画像に関して検討を深めたのち、脳損傷に関する神経生理心理学的知見について学ぶ。
臨床発達心理学特論	人のこころの発達には、身体的発達、認知的発達、社会的発達などが相互に関連しながら、周囲とのかかわりの中で変化していく過程であり、様々な視点から発達理論が構築されている。臨床心理学的な諸問題に関して、発達過程という観点から見直すことは、周囲との関係性の中で個人のこころのあり様がどのように形成され、現在の問題につながっているのかを理解することにつながる。この授業では、人のこころの発達と精神病理について、理論家がどのように理論を構築してきたのか、そして、実際の事例の中で、それらの理論がどのように臨床心理学的理解と支援につながっているかを学ぶ。
健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	心の健康問題と健康教育、ストレスマネジメントなどについて、健康心理学の今日的なトピックスも取り上げながら考える。心の健康の維持増進や、健康教育、ストレスの軽減や対処能力などに関する理論と実際について講義し、議論する。また、講義中でとりあげる心理的健康のテーマに関して、医療、福祉、心理の専門家がどのように協力して支援を展開していくことができるかについても考える。講義とグループ発表、討議などにより授業を進める。
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	司法・矯正領域における諸問題は、少年非行の問題、児童虐待との関連、発達障害との関連、犯罪被害者支援の問題など広がりを見せている。また、これらの問題は心理だけでは解決せず、医療や福祉等をも視野に入れる必要があるため、司法・犯罪領域ではさまざまな関係機関との連携が求められる現状にある。本講義では、これら司法・犯罪領域において生じる問題及びその背景をふまえながら、司法・犯罪領域における心理社会的課題とその心理的支援のあり方について理解を深め、心理職としてのあり方を実践的に学ぶ。
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	学校等の教育領域において心理支援を実践するにあたり必要となる専門的な理論や支援技法を学ぶ。具体的には、教育現場の特徴および現状や課題を概観した後、スクールカウンセラーが学校で行う支援、あるいは心理専門職が学校と連携して行う支援について実践的に学ぶ。さらに、心理・福祉・医療の融合を踏まえた「総合的学校臨床」のあり方についても考える。

<p>産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)</p>	<p>産業・労働分野における問題や心理職の活動内容を理解し実践できることを目的とする。授業形態は座学と小グループでのディスカッションを中心とする。事例を基にしたグループでの支援計画立案を毎回行うが、その他にロールプレイなどを取り入れ、教員と学生での双方向の意見を述べる。講義で扱う内容は、ストレスチェック、ハラスメント、リワークプログラム、自殺予防、キャリアカウンセリングなど、近年の産業分野の問題を中心に公認心理師や臨床心理士としての関わりや支援方法を扱う。また、医療や福祉等の関連領域との接続についてもとりあげる。</p>
<p>生涯発達心理学特論</p>	<p>発達心理学は、赤ちゃんから高齢者までの時間的変化に伴う心理発達に関する諸事象について明らかにし、発達の課題に対する支援についての知見と方法を提供するものである。本講義では、生涯発達に関する諸事象について、乳幼児期から老年期までの発達段階ごとに、特徴的な心理的課題と支援の在り方について、講義を中心とした授業を行う。本授業は、福祉健康科学の高度専門職・研究職となるにあたって求められる発達に関する深い理解と、発達支援を行う上での考え方や方法について学習を行うものである。</p>
<p>教育心理学特論</p>	<p>教育心理学は、教育の過程の諸事象にみられる事実や法則性を明らかにし、教師の教育的な働きかけをより効果的にするための心理学的な知見と方法を提供する実践科学である。本講義では、教育の事象を、発達、学習・動機づけ、教育評価、学級集団、学校カウンセリング、および障害児(者)の理解と指導に分け、それぞれの理論と方法論だけでなく福祉健康科学の専門職としての教育指導のあり方を考察する。</p>
<p>臨床心理学特論 I</p>	<p>心理専門職として訓練過程の最初期に習得しておくべき、もっとも基礎的な事項を学ぶ。具体的には、心理専門職としての職務や基本的な資質、倫理、成長過程、心理支援の専門性と独自性などである。また、心理支援の実践においては是非とも意識してもらいたいテーマについても取り上げる。</p>
<p>臨床心理学特論 II</p>	<p>本授業では、臨床心理学特論 I の学びを発展・深化させることを目的として、各担当教員が専門とする領域・アプローチについての学びを展開する。これにより、多様な心理臨床活動に通底する心理専門職としてのあり方について理解を深める。</p>
<p>臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)</p>	<p>心理療法に関するもっとも基本的かつ普遍的な事柄として、心理療法の定義や歴史、また面接者のあり方(姿勢・応答・倫理等)や心理療法の進め方(面接開始から終結に至るプロセス)等を取り上げる。その上で、力動論的アプローチ(精神分析的心理療法等)と認知行動論的アプローチ(認知行動療法)の理論と技法を、事例検討も含めて具体的に学ぶ。</p>
<p>臨床心理面接特論 II</p>	<p>臨床心理面接特論 I の発展・応用として、要支援者の特徴(年齢や発達段階等)、問題の性質(人格水準や深刻度、問題の現れ方等)、支援の場(医療、福祉、教育等の諸領域)に応じた心理療法の進め方を、事例検討を踏まえつつ具体的に学ぶ。</p> <p>具体的には、児童期の心理療法の代表である遊戯療法、思春期・青年期の心理的特徴を踏まえた心理療法、比較的重篤な問題(人格障害や精神病圏)に対する支持面接の進め方について取り上げる。あわせて、活動領域や機関の役割・特徴を踏まえた心理面接の進め方について考える。</p>

<p>臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）</p>	<p>心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている投影法については、他の性格検査とバッテリーを組んだ模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に複数の性格検査を組み合わせて実施し、結果を整理し、所見を書く作業を重ねることを通して、高度に実践的なパーソナリティのアセスメント能力を養成する。</p>
<p>臨床心理査定演習Ⅱ</p>	<p>心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている知能・認知機能検査については、提示される模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に知能・認知機能検査を実施し、結果を整理して所見を書く作業を重ねることを通して、被検者の発達のニーズの背景を総合的にアセスメントし、支援計画を提案していく高度に実践的な能力を養成する。</p>
<p>臨床心理基礎実習</p>	<p>臨床心理学的支援の基本である面接について、実習を通して基礎的理論、基礎的技法を学習することで、実践的能力を育てる。具体的には、クライアントの話を傾聴・理解し、応答するという基本的技法について学ぶとともに、ロールプレイによって体験的理解を深める（前期）。その上で、模擬面接と個別指導を実施し、より実践的に学ぶ。</p>
<p>臨床心理展開実習（心理実践実習A）</p>	<p>学内実習施設（心理教育相談室）の一員となって、1年次に学ぶべき心理支援の基本事項を実地に学ぶ。具体的には、心理支援のシステムやルール、相談の運営、要支援者に対してその都度求められる対応等である。また、要支援者に対して心理検査や発達検査、心理面接の実施を指導者と共同で担当する。担当した事例については、綿密な個別指導（スーパービジョン）を繰り返し行うとともに、カンファレンスにおける事例発表でも指導を行う。</p>
<p>臨床心理応用実習A（心理実践実習B）</p>	<p>学外施設（教育領域：教育支援センター、福祉領域：児童相談所もしくは精神保健福祉センター）に出向き、継続的な実習を行う。具体的には、各施設独自の役割や取組を知るとともに、教育領域では不登校や発達障害等、福祉領域では虐待、ひきこもり、精神障害といった問題に対し、指導者の指導・監督のもと、要支援者への支援を担当する。これにより、領域・施設ならではの支援の実践やチーム支援の実際を身を以て学ぶ。</p>
<p>臨床心理応用実習B（心理実践実習C）</p>	<p>学外施設（医療領域：精神科病院）に出向き、継続的な実習を行う。具体的には、各施設独自の役割や取組を知るとともに、様々な心理的疾患に関し、指導者の指導・監督のもと、要支援者への支援を担当する。これにより、領域・施設ならではの支援の実践やチーム支援の実際を身を以て学ぶ。</p>

臨床心理実習A (心理実践実習D)	1年次の基礎的な学びの上に立って、心理教育相談室における検査や心理面接の担当を本格化させる。特に、様々な年齢層や問題に対する支援を数多く担当することによって、要支援者の心理学的理解、要支援者の状況やニーズに応じた支援の組み立て、危機事象への対応、連携やチーム支援、見立てや検査結果を十分活かした支援の展開などの習熟を進め、心理支援の実践知を深化させる。
臨床心理実習B	臨床心理実習Aにおいて担当した支援事例について、毎回のセッションに関するスーパービジョン（短いスパンでの指導）、一定回数を重ねた上でのカンファレンスでの報告と指導（一定期間での指導）、事例検討会における1年の支援実践の省察（長いスパンでの指導）等、様々な形態の指導を組み合わせることで、心理支援のスキルの伸長をはかる。
臨床動作法特論	臨床動作法は、言語ではなく動作を媒介とする日本独自の非常にユニークな臨床心理学的援助技法である。本授業では、臨床動作法の理論や実践について講義・演習を行い、臨床動作法の実施に必要な知識を身につける。また基本的な援助者の態度や技術について学び、修得することも目的とする。授業では、実際の要支援者に対して臨床動作法を実践し、体験的に理解を深める。
保護者支援特論	少子化、核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化し、家庭や地域における子育て機能の低下、虐待、貧困などの社会問題が生じている。また、発達障害などの障害をもつ子どもの子育ては、困難を生じやすく、発達早期からライフステージ全体にわたる保護者支援が必要とされている。この授業では、保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、適切な支援および地域連携・多職種連携ができるよう、実践的な能力としてペアレント・プログラムを身につけることを目的とする。

8. 担当教員

(健康医科学コース)

担当教員	担当授業科目名	専門研究分野又はテーマ
教授 朝井 政治	地域医療健康増進科学特論 高齢者疾患特論 臨床実践演習	内部障害系理学療法学領域，特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。
教授 穴井 博文	医療工学特論	臨床医工学領域に関する研究指導を行う。
教授 石崎 敏理	病態医科学特論	薬理学領域に関する研究指導を行う。
教授 伊東 弘樹	病態医科学特論	薬物動態領域に関する研究指導を行う。
教授 猪股 雅史	医療工学特論	消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 井原 健二	病態治療学特論	小児科学領域に関する研究指導を行う。
教授 今井 浩光	病態医科学特論	医療倫理学領域に関する研究指導を行う。
教授 上村 尚人	病態医科学特論	臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。
教授 小野 克重	病態医科学特論	病態生理学領域に関する研究指導を行う。
教授 片岡 晶志	福祉健康科学特論Ⅰ 高齢者疾患特論 病態治療学特論 運動器系機能病態解析学特論	運動器領域，特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。
教授 河上 敬介	福祉健康科学特論Ⅱ 運動器系機能病態解析学特論	基礎理学療法学領域，特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。
教授 河野 憲司	病態治療学特論	歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 北野 敬明	病態治療学特論	麻酔科学領域に関する研究指導を行う。
教授 久保田 敏昭	病態治療学特論	眼科学領域に関する研究指導を行う。

教授 兒玉 雅明	高齢者疾患特論 病態医科学特論 病態治療学特論 地域医療健康増進科学特論	内科学領域，特に消化器内科学，消化器疾患病理に関する研究指導を行う。
教授 小林 隆志	病態医科学特論	微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。
教授 斉藤 功	公衆衛生学特論	公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。
教授 重光 修	病態治療学特論	救急医学領域に関する研究指導を行う。
教授 柴田 洋孝	病態治療学特論	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。
教授 白石 憲男	地域医療健康増進科学特論	総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。
教授 杉尾 賢二	病態治療学特論	呼吸器・乳腺外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 鈴木 正志	病態治療学特論	耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。
教授 駄阿 勉	病態医科学特論	診断病理学領域に関する研究指導を行う。
教授 高橋 尚彦	病態医科学特論	循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。
教授 谷川 雅人	運動器系機能病態解析学特論	生物物理学領域に関する研究指導を行う。
教授 寺尾 岳	神経系機能病態解析学特論	精神神経医学領域に関する研究指導を行う。
教授 徳丸 治	健康医科学特論	生理学領域，特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。
教授 波多野 豊	医療工学特論	皮膚科学領域に関する研究指導を行う。
教授 花田 俊勝	健康医科学特論	細胞生物学領域に関する研究指導を行う。
教授 花田 礼子	神経系機能病態解析学特論	神経生理学領域に関する研究指導を行う。
教授 濱田 文彦	健康医科学特論	生体構造医学領域に関する研究指導を行う。

教授 平松 和史	病態治療学特論	医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。
教授 藤木 稔	神経系機能病態解析学特論	脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 松浦 恵子	病態医科学特論	人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。
教授 三股 浩光	病態治療学特論	腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 宮崎 英士	地域医療健康増進科学特論	総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。
教授 宮本 伸二	医療工学特論	心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。
教授 村上 和成	病態治療学特論	消化器内科学領域に関する研究指導を行う。
教授 山岡 吉生	公衆衛生学特論	環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。
准教授 阿南 雅也	運動器系機能病態解析学特論 臨床実践演習	運動器理学療法学領域, 特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。
准教授 伊波 英克	病態医科学特論	微生物学領域に関する研究指導を行う。
准教授 加来 信広	病態治療学特論 臨床実践演習	整形外科領域に関する研究指導を行う。
准教授 河野 康志	病態治療学特論	産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。
准教授 下田 恵	病態医科学特論	医化学領域に関する研究指導を行う。
准教授 紀 瑞成	健康医科学特論	組織細胞化学領域, 特にリンパ学に関する研究指導を行う。
准教授 泥谷 直樹	病態医科学特論	分子病理学領域に関する研究指導を行う。
准教授 廣中 秀一	病態医科学特論	腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。
准教授 松尾 哲孝	健康医科学特論	マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。
准教授 松本 俊郎	医療工学特論	放射線医学領域に関する研究指導を行う。

講師 菅田 陽怜	神経系機能病態解析学特論 臨床実践演習	基礎理学療法学領域，特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。
-------------	------------------------	--

(福祉社会科学コース)

担当教員	担当授業科目名	専門研究分野又はテーマ
教授 相澤 仁	福祉健康科学特論Ⅰ 児童・家庭福祉特論	社会的養護，児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。
教授 上白木 悦子	福祉健康科学特論Ⅰ 福祉社会科学課題演習 医療福祉特論	保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。
准教授 川村 岳人	福祉健康科学特論Ⅰ 福祉健康科学特論Ⅱ 地域福祉特論	地域福祉，社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う。
准教授 廣野 俊輔	社会福祉原理論 障害者福祉特論	障害者福祉に関する研究指導を行う。
准教授 松本 由美	社会保障政策特論	社会保障に関する研究指導を行う。
准教授 三好 禎之	福祉社会科学課題演習 生活困窮者支援特論	生活保障，生活構造領域に関する研究指導補助を行う。

(臨床心理学コース)

担当教員	担当授業科目名	専門研究分野又はテーマ
教授 武内 珠美	臨床心理学研究法特論 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理展開実習（心理実践実習A） 臨床心理応用実習A（心理実践実習B） 臨床心理応用実習B（心理実践実習C） 臨床心理実習A（心理実践実習D） 臨床心理実習B 保護者支援特論	臨床心理学，母子臨床，学校臨床領域に関する研究指導を行う。

<p>教授 渡邊 亘</p>	<p>福祉健康科学特論Ⅱ 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理展開実習（心理実践実習A） 臨床心理応用実習A（心理実践実習B） 臨床心理応用実習B（心理実践実習C） 臨床心理実習A（心理実践実習D） 臨床心理実習B</p>	<p>臨床心理学，心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>准教授 飯田 法子</p>	<p>福祉健康科学特論Ⅱ 家族・コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） 福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理展開実習（心理実践実習A） 臨床心理応用実習A（心理実践実習B） 臨床心理応用実習B（心理実践実習C） 臨床心理実習A（心理実践実習D） 臨床心理実習B</p>	<p>臨床心理学，福祉臨床，子育て支援領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>准教授 河野 伸子</p>	<p>臨床発達心理学特論 障害児・者心理学特論 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理展開実習（心理実践実習A） 臨床心理応用実習A（心理実践実習B） 臨床心理応用実習B（心理実践実習C） 臨床心理実習A（心理実践実習D） 臨床心理実習B 保護者支援特論</p>	<p>臨床心理学，発達臨床，心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>准教授 中里 直樹</p>	<p>心理学研究法特論</p>	<p>社会心理学，心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。</p>

<p>准教授 溝口 剛</p>	<p>臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論 I 臨床心理査定演習 I (心理アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理査定演習 II 臨床心理展開実習 (心理実践実習 A) 臨床心理応用実習 A (心理実践実習 B) 臨床心理応用実習 B (心理実践実習 C) 臨床心理実習 A (心理実践実習 D) 臨床心理実習 B</p>	<p>臨床心理学, 青年期の心理臨床, 学生相談領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>准教授 村上 裕樹</p>	<p>神経生理心理学特論 心理学研究法特論</p>	<p>実験心理学, 情動, 神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>講師 池永 恵美</p>	<p>障害児・者心理学特論 臨床心理学特論 II 臨床心理基礎実習 臨床心理展開実習 (心理実践実習 A) 臨床心理応用実習 A (心理実践実習 B) 臨床心理応用実習 B (心理実践実習 C) 臨床心理実習 A (心理実践実習 D) 臨床心理実習 B 臨床動作法特論</p>	<p>臨床心理学, 障害児者心理, 臨床動作法領域に関する研究指導を行う。</p>
<p>講師 岩野 卓</p>	<p>産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) 臨床心理応用実習 A (心理実践実習 B) 臨床心理応用実習 B (心理実践実習 C)</p>	<p>臨床心理学, 認知行動療法, 産業臨床領域に関する研究指導を行う。</p>